

学校教育目標	かしこく なかよく たくましく かがやく子の育成
目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校 ・児童が生き生きと活動する学校 ・児童が学ぶ喜びを味わえる学校 ・児童一人ひとりに適切な指導を行う学校 ・安全で、清掃の行き届いた美しい学校・家庭、地域社会から信頼される学校

重点目標	1 「真の学力」の育成をめざす教育の充実 2 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 教職員研修の充実
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学 び の 質 の 向 上 に 関 する 取 組	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。理科も同様 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、学習意欲も高い。 <課題> ○学びの指標をもとにした授業改善を推進する必要がある。 ○自分の考えをより深く新しい価値を創造していくためにも、話す・聞くことをより強く意識した学習を推進していく必要がある。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく授業改善を行う。 ②学びの指標をもとにした授業研究（ICTの活用等）を通して児童のエンジェンシーを育む授業改善を行う。	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができたか。 (R6:国語76%、算数74%) ②学びの指標の平均値が向上したか。 (第1回との比較、市平均との比較)				
2 心 の サ ポ ー ト に 関 する 取 組	<現状> ○学校評価の結果から、「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目(97%)、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」(91%)の項目で保護者の高評価を得られている。 <課題> ○児童の問題行動、いじめ、教室に入れない子、不登校等に対し、組織でより効果的にかかわる必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①生徒指導・教育相談部会の行い方（頻度、協議内容等）を見直し、問題行動、いじめ、不登校等に対し、ケース会議を中心として、法に則ったより効果的に関わることのできる体制を作る。 ②サンキッズ相談日（教育相談の日）を定期的実施する。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、適切な支援を行う。	①学校評価の「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合を向上できたか。 (R6:37%) ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の回答率が向上したか。 (R6:児童48%、保護者47%) ③サンキッズ相談での面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有・引継ぎされたか。				
3 学 校 づ く り に 関 する 取 組	<現状> ○「あいさつができること」は学校・保護者・地域共通の願いである。進んであいさつする児童は増えてきたがより浸透させたい。 ○働き方改革も踏まえ、様々な工夫をしながらコロナ以前に近い形で学校行事等を実施することができている。 <課題> ○地域の教育資源を活用した学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに「スクリレ」と学校ホームページを活用して情報の受け取り度を上げる工夫をする必要がある。	・目指す児童の姿を地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①地域の方を主な対象として、学校ホームページの内容や使い方を見直し、地域に発信する情報を分かりやすくする。 ②主体的なあいさつを習慣化するため、児童の声を反映したあいさつ運動（中学校との合同も含む）、スローガン、朝会での呼びかけ等を実践する。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。 (R6:51%) ②③学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。 (R6:児童64%、保護者等45%)				
4 教 育 環 境 の 整 備 に 関 する 取 組	<現状> ○安全点検は計画通り確実に実施できている。危機管理体制も改善できている。 ○オープンルームのメリットはあるが、発達段階によって、または個性によって効果的な活用できる工夫が必要である。 <課題> ○オープンルームのメリットはあるものの、発達段階的に集中したいときやプライバシーを確保したいときには課題がある。	・安全・安心な環境づくりと安全に関する指導の充実 ・児童一人ひとりへの細やかな環境整備	①安全点検を実施する際、破損箇所だけでなく死角になる部分やケガに繋がる恐れのある箇所を確認し、迅速に修繕や環境の改善を行う。 ②危機管理（けが発生時の対応、不審者への備え等）を徹底するとともに、適宜、児童への安全に関する指導を行う。	①学校評価における「安全への配慮」の『そう思う』の保護者の回答率が向上したか。 (R6:54%) ②不審者対応訓練を実施し、児童アンケートの「安全指導」の『そう思う』の児童の回答率が90%以上。				
5 教 職 員 の キ ャ リ ア 形 成 に 関 する 取 組	<現状> ○タブレットPCをはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○教職員各自がPlant等を活用して主体的に研修計画を立てる意識をもって取り組むことができている。 <課題> ○主体的な個別最適な学びと協働学習をさらに推進するための研究、研修を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実	①エバンジェリストを中心に、情報部と連携して、教職員のICT機器の活用能力を向上させる研修を実施する。 ②小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開を実施する。 ③管理職との対話により、主体的な教職員研修（教職員のエンジェンシー育成）を支援する。 ④コーチングの手法をあらゆる場面で実践できる教職員を増やす。（通年）	①エバンジェリストを中心に機器活用研修会を年3回以上実施したか。 ②小中学生が協働した実践を3回以上行ったか。 ③主体的に計画した研修が実施されたか。 ④コーチング研修を実施し、教職員アンケートで全教員の実践を集約する。（12月）				